

8月10日（木）ファミリーと別れ、ロンドン市内観光へ

月日経つのは早いもので、ついにホストファミリーとお別れする日になってしまいました。ハグを交わしながら、“You have to come back to England and stay with us again.”“It has been really lovely having you.”といったファミリーからの温かいお別れの言葉に、時には涙を流しながら“See you again!”、“Thank you so much!”と生徒たちも応えていました。ホストファミリーと生徒たち、どちらにとっても素晴らしいホームステイだったということが感じられる感動的な瞬間だと感じました。バスが出発する最後まで沿道に立ち、手を振りながら見送りをしてくださるホストファミリーもいてくださり、バスの中から必死に手を振り返す生徒の姿もありました。



ホストファミリーと別れた後、ロンドン観光に向かいました。「ブルーバッジ」を持っているブルーバッジガイドさんにロンドンを案内してもらいました。ロンドンでは、「ブルーバッジ」を所持している人でないと案内をしてはいけないことになっているそうです。「ブルーバッジ・ガイド」とは最低2か国語で、イギリスの歴史・建築・美術・地理・産業といった基礎的情報や最新情報を案内でき、難易度の高いテストに合格をしたガイドさんたちのことです。歴史あるロンドンでは、どこに行ってもたくさんのお話を聞けるので、気を抜く暇がありませんでした。

ロンドン観光ではまず、バッキンガム宮殿を見学しました。バッキンガム宮殿周辺にはイギリス国旗がいくつもはためき、花壇には色とりどりの花が咲き乱れ、その美しさは絵葉書そのものでした。残念ながら、この日は衛兵交代式が実施されませんでした。そのおかげで宮殿を間近で見ることが出来ました。



次に、セントジェームズパークの木々や湖、のどかな水鳥を横目に見ながらウェストミンスターへと向かいました。天候にも恵まれ、ロンドン市内中心地にある大きな公園でたくさんの方々がのんびりと過ごされていました。ウェストミンスターは政府省庁が集まった地区で、国会議事堂及びロンドンのシンボル「ビッグベン」をガイドさんの説明を聞きながら回りました。そして、エリザベス2世のお葬式やチャールズ3世の戴冠式が行われたウェストミンスター寺院を外見から見学しました。



その後、ロンドンの繁華街の一つである「コベントガーデン」で自由時間をとりました。限られた時間でしたが、友達や家族へのお土産を手には笑顔で戻ってきました。特にロンドンの交通機関のオフィシャルグッズを販売するお土産屋さんが人気でした。

昼食後は大英博物館へ向かいました。大英博物館は、イギリスが誇る宝を保管・展示し、世界の宝庫と呼ばれ、世界四大博物館の一つに数えられています。1759年に開館し現在では美術品や書籍、戦利品など実に約800万点が収蔵されています。神聖文字（ヒエログリフ）を解読し、エジプトの歴史を紐解くきっかけになった「ロゼッタストーン」や、古代ギリシャのパルテノン神殿の一部、実に約5400年も前のミイラなども見学しました。夏休みシーズンだったこともあり、世界中から集まった多くの方々と賑わっている館内を、ガイドさんの詳しく興味深い説明を聞きながら見学し、生徒たちは世界を席卷した大英帝国の歴史と偉大さを感じている様子でした。



最後の観光地を見学してから、ヒースロー空港へ移動しました。全員が搭乗手続きを無事終了し、家族の待つ日本へと飛び立ちました。

(参考:(株)コッツウォルズ・ウインド・アカデミー 公式ホームページ)

引率教員「あとがき」

夏期イギリス研修に参加された皆さん、12日間本当にお疲れ様でした。多くの保護者様方にお見送りいただき、伊丹空港を出発しました。約22時間を経て、現地校に到着後、すぐにホストファミリーに挨拶をし、イギリスでの生活がスタートしました。苦しいこともあったかもしれませんが、ホストファミリーと過ごした時間は、皆さんにとって他には変え難いものになったのではと思います。翌日以降は多くの企画が用意されており、本当にあつという間の帰国となりました。今回は、研究テーマを1つ選び、最終日にスピーチを行うというプログラムでした。スピーチに向けた授業の中で、フィールドワークを含め、多くの場所を訪れました。訪問先では現地で働かれている方や学生にインタビューをしました。グロスター大聖堂やクライストチャーチをはじめ、様々な観光地にも赴きました。スピーチ原稿を書いたり、スライドを作成したり、英国人学生たちと協力しながら、楽しく準備を進めることができました。約10日間の活動を経て、生徒たちは研究の結果を発表しました。発表会場には各ホストファミリーが集まり、生徒たちも緊張した面持ちでしたが、それぞれが素晴らしいスピーチをしてくれました。堂々とした立ち振る舞いが、とても頼もしく感じられました。帰国後の授業でも、今回のような取り組み姿勢をぜひ継続してもらいたいと思います。

今回のプログラムを通して、英語は単なる「教科」ではなく「コミュニケーションの道具」であると体感できたのではないのでしょうか。この12日間で海外への興味がさらに広がったならとても嬉しく思います。今後も様々な経験をできる留学に挑戦してみたいと考えています。この研修の目的の一つには、英語力の向上がありますが、今回得た経験を今後の自分に活かすことが最も大切だと思います。普段の生活とは異なる環境で過ごしたからこそ、これまでよりも更に国際的な視点で、物事を考えることができるはずです。

この研修に参加させてくださったお家の方への感謝を忘れず、これからもたくさんの方に挑戦し、自分自身の経験値を高めていってください。普段の学校生活では接することがあまりない皆さんの引率で、少し不安な気持ちもありましたが、研修を終えた今、皆さんに関わる機会を持てたことを大変幸せに思います。今後も、皆さんが積極的に行動し、より良い経験を積み重ねていくことを期待しています。陰ながら応援しています。本当に有難うございました。